

益子と笠間の陶芸家、総勢約 100 名が参加する『かさましこ登り窯プロジェクト』
完成した器が MOGI にやってきます！



『Kasamashiko 2026 Ceramics exhibition』 at MOGI & MOGI Gallery Shop

かつて濱田庄司が使用していた益子参考館の登り窯を、益子と笠間で活動する約 100 名の陶芸家が共有し、薪の準備から火の番、窯出しまでを共同で行い作品をつくる特別なプロジェクト『かさましこ登り窯プロジェクト』。完成した器は、笠間、益子、東京で展示販売、MOGI & MOGI Gallery Shop にも約 15 名の作家の器が並びます。

— 開催概要 —

Kasamashiko 2026 Ceramics exhibition

日時：2月28日（土）- 3月23日（月）12:00 - 19:00

*土日月のみオープン

会場：MOGI & MOGI Gallery shop 東京都杉並区高円寺南 3-44-14

8年ぶりの開催、登り窯に再び火が入ります！

『かさましこ登り窯プロジェクト』は、かつて濱田庄司が使用していた益子参考館内の登り窯を、庄司の孫である作家・濱田友緒さんを中心に2015年に40年ぶりに復活させたのが始まりです。2011年、震災によって益子では多数の窯や作品、商品が被害にあい、販売先や器を求めて町に来る人も大幅に減少してしまうという状況になりました。復興のため、そしてものづくりの文化が根付いた地域の豊かな魅力を改めて伝えるために、登り窯修復プロジェクトはスタートし、2018年の第2回開催時には、隣町の笠間の作家も多数参加。このプロジェクトの活動は、2020年に笠間と益子が「かさましこ」として日本遺産認定された際にも大きな話題となりました。

そして今回「かさましこ登り窯プロジェクト」として始動。長さ16m、幅5m、1万点は焼成できると言われる大きな登り窯を、益子と笠間で活動する約100名の陶芸家が共有し、薪の準備から火の番、窯出しまでを共同で行います。完成した器は、笠間、益子、東京で展示販売を行います。展示販売を行うMOGIのディレクター、テリー・エリスと北村恵子は、益子の土地や歴史、過去～現代に至る作家たちに魅了され、かれこれ30年以上通い続けてきました。

今回、15組ほどの作家の作品を『MOGI & MOGI Gallery Shop』で展示販売します。



2026年開催の登り窯の区割表



2018年開催時の窯の様子 写真提供：かさましこ登り窯プロジェクト



2018年開催時 写真提供：かさましこ登り窯プロジェクト

MOGI で展示予定の作家から、数名ご紹介



濱田友緒（はまだともお）

1967年濱田晋作の子、濱田庄司の孫として益子町に生まれ、幼少時から土に親しんできた濱田氏。2008年濱田窯三代目代表に就任。以降、濱田窯代表として、一作家として国内外で活躍をしている。登り窯プロジェクトのリーダー的存在。

「現在、益子と笠間には器を制作している方がそれぞれ3～400人ほどいると言われていています。今回の登り窯プロジェクトでは学生枠も設け、プロと併せて100名以上の参加者となりました。1、2回目（2015年、2018年）は、再建を果たした濱田庄司の登り窯を焼くことで震災からの復興を祈念することをプロジェクトの柱としました。3回目となる今回は、笠間焼の方々との共同のプロジェクトとして、登り窯の焼成を若手からベテランまで皆で共有して体験することで、伝統的な技法の学びの場とすることを目的としています。希望の方には濱田窯の柿釉と黒釉を提供し、益子の伝統釉の魅力も知っていただきました。私自身も、大皿や大壺、ラーメン鉢、マグカップ等に益子の伝統釉をたっぷり使用した作を窯に入れました。」

<https://hamadagama.net/@tomoohamada>



松崎 健（まつざきけん）

島岡達三に師事後、1977年に益子に築窯してから現在まで、日本、イギリス、アメリカなど国内外で展開催や受賞と活躍を続ける松崎氏。窯変や薪窯による灰被が生む表情を大切にしています。

「今回のプロジェクトでは、普段から作っているものを、いつもとは違う窯で焼いてみたらどうなるか、という心持ちで、もし焼けすぎたとしても成り立つものを、そして釉薬の表現を楽しんでみようと思っています。」

yuushin-gama.com



松崎 幹（マツザキカン）

アメリカで大学を卒業しフリーの写真家として活動した後、生まれ故郷の益子に戻り、2015年から茶盃の制作を始めた幹氏。「ゴールを決めずに手を動かし始め、自分がイメージする道具としての機能とオブジェとしてのフォルムの両バランスのとれた形を楽しみながら模索し続けています。茶碗、花器、食器などを準備する予定です。」

www.kanmatsuzaki.com

[@kanmatsuzaki/](https://twitter.com/kanmatsuzaki/)



MOGI で展示予定の作家から、数名ご紹介



加守田太郎 (かもだたろう)

いつも使うもの、大好きな音楽や趣味のもの、コーヒーが手を伸ばせばすぐに届く、まるで隠れ家のような空間で日々制作を続ける加守田氏。「登り窯プロジェクトでは3名でシェアをします。普段通りに、手びねりで形を造り、施釉は筆塗り、抽象の絵柄というスタイルで茶碗やベースを制作する予定です。」@tarokamoda



伊藤丈浩 (イトウタケヒロ)

益子の製陶所勤務を経て、2006年から益子で独立し制作を続ける伊藤氏。アメリカ旅行中や、民藝館の展覧会で見たスリップウェアに魅了され、以降、独自の表現方法を見出しながらスリップウェアを制作。「普段と同じような品を用意しますが、大きな登り窯だからこそ詰める場所によって生じる焼き上がりのムラを楽しめるかなと期待を込めて制作しています」

@itomashiko



【かさましこ登り窯プロジェクト】

ウェブサイト <https://kasamashiko.style/>

公式インスタグラム @noborigama_p

MOGI & MOGI Gallery Shop

東京・高円寺で、民藝、さまざまな国や地域のクラフト、アート、オリジナルやヴィンテージの洋服などを紹介する「MOGI Folk Art」を営むテリー・エリスと北村恵子が、2024年3月にオープンした2つめのショップ「MOGI & MOGI Gallery shop」。1人の作家にフォーカスした展覧会を開催するなど、お客様が作品や作家の思考と触れ合っ、密度の濃い時間をお過ごしいただける場所です。 @mogi_folk_art @mogi_and_mogi mogi-shop.com

【本件に関するプレス関係者さまお問合せ】

担当：竹形尚子（デイリープレス） tel. 03-6416-3201/ 090-1531-6268 naotakegata@dailypress.org